

BIGBEARS 日本一への取り組みに関する一考察

「準備」「気持ち」「フィジカル」に着目して

Analysis on various challenges during BIGBEARS pursuit of championship

-With keywords "Preparation, Physical, Hearts" -

1K06B076

指導教員 主査 寒川恒夫先生

河石 泰

副査 吉永武史先生

【はじめに】

自分は大学4年間、早稲田大学米式蹴球部BIGBEARSに在籍し、「日本一」になるために毎日東伏見のグラウンドに通い、練習・試合を繰り返してきた。4年時のシーズンでは6年ぶりにリーグ制覇を成し遂げ、東日本決勝戦まで進むことができたが「日本一」には及ばなかった。引退した今、もう一度改めてBIGBEARSで何をしてきたのか、どういった部だったのかを見つめなおしたいと思いこのテーマを卒業論文に選んだ

【第1章アメフトおよびBIGBERASの概要】

早稲田大学米式蹴球部は昭和9年に創部され、11年に初優勝を果たす。近代化は80年より始まり、現在は朝倉監督体制である。アメリカンフットボールは、11人で行うスポーツで様々なポジションに分かれており、役割・特性も大きく異なる。対象となったBIGBEARSは早稲田の創立者大隈重信に因んで名づけられた。東伏見に専用グラウンドを持ち、約100名の部員と約20名の指導者が在籍している。第2章から第4章まではチームフィロソフィーである「準備」「フィジカル」「気持ち」に対しての取り組みを順に見ていく。

【第二章「準備について」】

アメリカンフットボールは準備のスポーツとも呼ばれ、その勝敗の50パーセントはこの準備

で決まるといわれている。BIGBEARSではここに最も力を注いでいる。BIGBEARSにおける準備とは、スカウティングからミーティング・普段の生活・リクルート活動をさす。これを徹底して行うことにより勝利への自信へと繋げている。

【第3章「フィジカル」について】

フィジカルとは、鍛え当たり負けない体を作ること示す。これは、スピードやテクニックでは他校のアスリート選手に劣るがhitという部分で圧倒しようという考えのもと掲げられているフィロソフィーだ。体作りの基本である食事管理では栄養士の指導の下、食事ログシートや栄養セミナーを行い栄養の基礎知識から身に付けていく。またFLEXと呼ばれるトレーニング期間があり、専門のトレーナーの指導の下3か月間ペアで集中的にトレーニングを行う。

【第4章「気持ち」について】

試合当日に気持ちを上げる取り組みが多くみられる。それは服装から始まり、テーピングのアンダーラップにまで至る。試合直前の紺碧ハドルはその代表だ。そのほかにモチベーションをあげるものとして順位表制度を行い、また普段の生活のなかでもコミュニケーションパーティーやアメフト以外のスポーツをするレクリエーションを開催する。

【第五章まとめ】

B I G B E A R Sでは、勝ちたい・日本一になりたいという「気持ち」がそのための「準備」をさせ、その準備が勝利への自信と繋がりさらにまた勝ちたい・日本一になりたいという勝利への執着心「気持ち」を高めるというサイクルが生まれていると気づいた。このチームにおいては、どれかひとつでも欠けるとサイクルは機能しなくなり日本一という目標は成し遂げることができない。